5月の道内景況　情報連絡員レポート

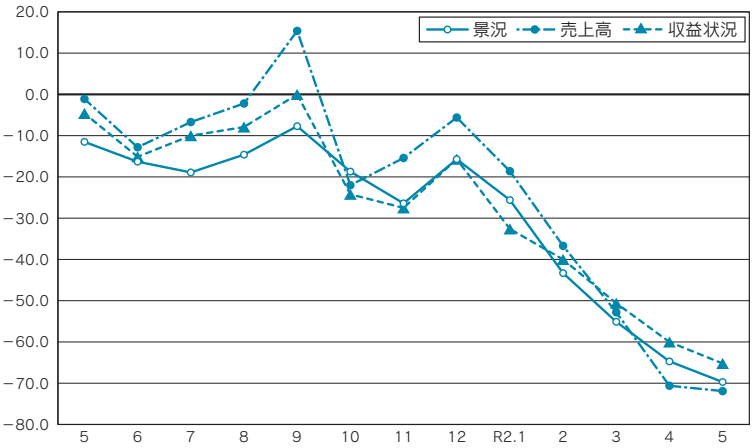
主要DIの悪化に歯止めかからず　マイナス域での推移続く

概　況

主要DIの推移では、本年1月から5か月連続で「景況」「売上高」「収益状況」のすべてが悪化した。

業種別に見た前月との比較では、製造業では「販売価格」「雇用人員」、非製造業は「取引条件」「資金繰り」「雇用人員」で若干の改善が見られたものの、それ以外のすべての項目で悪化し、依然としてマイナス幅は大きい。

主要 DI の推移



景況天気図（前年同月比）

	全業種			製造業			非製造業		
	4月	5月	前月比	4月	5月	前月比	4月	5月	前月比
業界の景況	△64.7	△69.7	△5.0 ↘	△58.6	△65.6	△7.0 ↘	△67.9	△71.9	△4.1 ↘
売上高	△70.6	△71.9	△1.3 ↘	△58.6	△62.5	△3.9 ↘	△76.8	△77.2	△0.4 ↘
収益状況	△60.0	△65.2	△5.2 ↘	△55.2	△56.3	△1.1 ↘	△62.5	△70.2	△7.7 ↘
販売価格	△14.1	△14.6	△0.5 ↘	△20.7	△18.8	1.9 ↗	△10.7	△12.3	△1.6 ↘
取引条件	△20.0	△19.1	0.9 ↗	△10.3	△15.6	△5.3 ↘	△25.0	△21.1	3.9 ↗
資金繰り	△36.5	△37.1	△0.6 ↘	△41.4	△46.9	△5.5 ↘	△33.9	△31.6	2.3 ↗
雇用人員	△25.9	△21.3	4.5 ↗	△13.8	△9.4	4.4 ↗	△32.1	△28.1	4.1 ↗

（凡例）　30以上　10～29　9～△10　△11～△29　△30以下

天気図の見方　各景況項目について調査月と前年同月を比較して、「増加」（または「好転」）したという回答（構成比）から「減少」（または「悪化」）という回答（構成比）を差し引いた値（D・I）をもとに作成。天気の表示は凡例のとおりです。

製造業

・新型コロナウイルスによる自粛の影響を受け売上不振が続いてる。
（水産食料品／全道）
・学校給食の停止や飲食店・各施設の休業、外出自粛等が大きく影響し、スーパー関係以外の売上が５～８割減となった。助成金や補助金で糊口を凌いでいるが、今後廃業に追い込まれる事業者が出てくると思われる。（めん類／全道）
・４月単月の出荷量は、味噌は前年比微減、醤油は大きく減少した。新型コロナウイルスの影響で、業務用の取扱い比率が高い企業ほど苦しい状況にある。
（味噌・醤油／全道）
・食品スーパーを除くほぼ全ての小売、飲食業が自粛営業し、食品スーパーでの買いだめ需要も落ち着いたことで飲料水の消費は大きく落ち込んだ。（飲料／全道）
・製材市況は、カラマツは弱保合。エゾ・トドマツは弱保合。原木市況は、カラマツは弱保合。エゾ・トドマツは弱保合。カラマツ原木は地域によりバラツキがある。製材の受注は、梱包材、パレットの受注がなく荷動きは非常に悪い。エゾ・トドマツ原木は、民材の供給があり順調な入荷。製材工場では在庫を多く抱えている。原木価格は低下の兆しが見え始めている。製品受注に陰りが出てきたことで価格転嫁が難しくなっており、価格低下は避けられない状況。
（一般製材／全道）
・新型コロナウイルスの影響で物流全般の動きが悪く、製材の受注量は４月から大きく落ち込んだ。５月は前年対比70％の生産量で、時短及び休日を増やして生産調整を行っている。（一般製材／中川郡）
・前年同月比で大幅な売上減となった。（加工紙／全道）
・５月の生コン出荷量は前年同月比87.6％の約213千m^3。
（窯業・土石製品製造業／全道・生コン）
・大手・中堅ゼネコンからの硝子・建具の見積依頼件数が大幅に減少し、将来の売上見通しが立たない状況。一般住宅を手掛ける工務店では、商談のための訪問ができず、ほとんどの工事が先延ばしになっている。将来の収入への不安が原因となり、決定していた新築工事をキャンセルされた事例もある。
（窯業・土石製品製造業／全道・ガラス）
・自動車や産業機械など公共関連以外の受注が大幅に減少した。稼働率低下により目先雇用は不要だが、人材獲得のチャンスと見る向きもある。（銑鉄鋳物／全道）
・造船不況期に新型コロナウイルスが重なり、造船業界は先行きの見通しが立たない状況に陥っている。新造船完成後も船員が国内に入国できず、出航できないため、引き渡し遅延により岸壁に係留されている状態。船価の最終支払いも遅れ、資金繰りが問題となっている。会員事業者の昨年度売上は前年比１割減となり、公共事業減少の影響を直に受けている。（金属製品／室蘭）
・新型コロナウイルス関連でビニールカーテンや防護服、フェイスガードなどの問合せが増加した。（金属機械工作／全道）
・新型コロナウイルスの影響で、一部の印刷部門では販売促進用のチラシ印刷などの発注が大幅に減少した。（金属機械工作／札幌）

非製造業（卸・小売・商店街・サービス業）

・緊急事態宣言解除を受けて小売が活動し始め、商品も動き出すなど回復の兆しはあるが、減収傾向に変わりはない。収益面でも厳しい業種は多いが、生活雑貨は順調であり、扱う商品による差が大きい。靴履物はネット販売からリアル店舗での購入という消費動向の変化があり、スニーカー、サンダル等の実用的な商品への志向が強くなっている。医療機器では感染症対策用の資材が調達できない一方で、一般の検査や手術がストップして機材や試薬の需要減少が続いている。組合の展示場・貸会議室は道の休業要請を受け入れたことで５月予約分はほとんどがキャンセルとなり大幅な減収になった。（各種商品／札幌）
・新型コロナウイルスがさらに長期化した場合、物流ストップや収入減に伴う今後の資金繰り、資金調達、設備投資の凍結などへの懸念がある。（各種商品／帯広）
・４月同様、新型コロナウイルスの影響で売上・収益ともに激減した。
（各種商品／帯広）
・物販では、衣料品店・飲食店・旅行業・観光産業の売上は大幅に減少したが、家電量販店の売上が堅調であったのと、食料品・日用品・医薬品等の巣ごもり需要による売上増加に支えられ、前年比90％代の減少に留まった。キャッシング売上は過去最大の減少となり、収益は悪化している。（各種商品／旭川）
・５月取扱高は前年比89％。緊急事態宣言の影響は大きく、先月から引き続き売上高、収益状況の悪化が続いている。廃業する販売店も表れ始めた。
（各種商品／苫小牧）
・外出自粛の影響を受け、客足は依然少ないものの、市場が通常営業していることは巷間に認知されており、月末に特売を行ったところ４月並みの客足があった。道内外の客に自前商品のパンフレットを郵送し直接受注するなど独自の対策を講じる店も見受けられる。（各種商品／小樽）
・５月中旬に営業を再開したところ、地元客を中心に客足が戻りつつあるが、新型コロナウイルス流行前の状況まで回復するには時間を要すると思われる。
（各種商品／函館）
・小売店では緊急事態宣言解除後も客足が戻らず、現状が長引けば極めて厳しいとの切実な声が多く聞かれた。組合取扱高は前年を大きく下回る結果になった。（各種商品／釧路）
・組合全体の販売高は前年比100.4％。食品スーパーは前年比110％、ホームセンターは前年比117％、それ以外の一般店は前年比81.5％。スーパー、食料品等、ホームセンターは好調だが一般店は苦戦しており、二極化が進んでいる。（各種商品／芦別）
・観光関連の取引が多い組合員企業では、外出自粛により売上は激減したが、スーパーとの取引が多い企業は巣ごもり需要を受けて大幅に売上が伸びた。
（菓子／全道）
・海外メーカーサプライチェーンの設備機器部品の供給がはじまり、エアコン機器の在庫が増加するなど供給体制は良くなってきている。（電気資材／全道）
・新型コロナウイルスの影響で客先訪問できず、売上減少につながっている。
（電気機械器具／全道）
・新型コロナウイルスの感染拡大を受け、変則通勤やテレワーク、会議の中止等の措置を講じざるを得ず、業務に支障をきたしている。（農業用機械器具／全道）
・売上高は対前年同月比85.48％。来店客数減に加え客単価も落ち込んでいる。
（野菜・果実／札幌）
・新型コロナウイルスの影響で外国人観光客は皆無、国内ツアーもほぼ無い。
（鮮魚／釧路）
・５月の原油価格は乱高下が続き仕切り価格が大きく動いたこともあり、末端での値取りができない販売事業者も多く見られた。ガソリン・灯油等石油製品の販売動向は予想を大幅に下回る結果になった。新型コロナウイルスによる需要減が要因として考えられるが、依然続く節約基調も重なり、定量買い、定額買いにも顕著に表れている。今後も末端販売店は厳しい競争環境等を背景に確実な転嫁ができない状況が続くと思われる。（燃料／全道）
・例年５月はGWの影響で車両用燃料の販売数量は増加するが、今年は外出規制により大きく落ち込んだ。暖房用燃料も学校休校や公共施設の閉鎖、イベント等の中止で需要が大幅に減少し、業界全体として大変苦しい経営状況になっている。（燃料小売業／稚内）
・５月中旬以降、卸値は大きく値上げ改定で推移。小売店の販売価格も上方修正で推移した一方、収支状況では従来と同じく量販店の安値攻勢により厳しい利益口銭に圧縮。新型コロナウイルスの影響で販売量が大幅に減少し収益も大きく落ち込んだほか、学生アルバイトの出勤が制限され雇用人員も継続的に減少している。（燃料小売業／旭川）
・外出自粛の影響で売上が一気に落ちたが、持続化給付金を申請できるまでの減少幅でないところが多い。（自転車・自動車／全道）
・新型コロナウイルスの影響で販売環境は厳しさを増し、販売台数は前年比減。
（中古自動車／札幌）
・地元百貨店の４月売上高は前年同月比39.1％減の２億３千５百万円。外出自粛、営業時間短縮の影響が大きく表れた。５月共通駐車券の利用は前年同月比51.3％、買物共通バス券は前年同月比62.3％に減少し、厳しい状況が続いている。（商店街／帯広）
・先月にも増して来街者が激減し、景況感は著しく悪い。（商店街／網走）
・休業要請解除に伴いサウナ営業を再開したが、サウナ休業中の利用者の減少が収益面に及ぼす影響は極めて大きい。（公衆浴場／全道）
・新型コロナウイルスの影響で、システム開発案件に携わる技術者の自宅待機や在宅勤務要請だけでなく、案件の中断や延期も発生している。現状では新規のシステム開発案件数が減少して、６月以降の収益に影響が出るのは確実。ボーナス時期を控えていることもあり、資金繰り悪化の懸念や社員の安定雇用継続への不安が噴出している。IT業界では慢性的な人手不足が続いていたが、新型コロナウイルスより道内中小IT企業は採用を中断、停止して様子見の状態になっている。人件費を増やしてまで人手を確保する必要はないと考える企業が多い。（ソフトウェア／全道）
・新型コロナウイルスの影響により、宿泊予約がなく、施設を休業せざるをえない状況が続いている。（旅館／音更）

非製造業（建設・運輸業）

・公共工事に関して、若干発注が遅い様子はあるが、発注量自体は例年と同量を維持している。民間工事においては、多くの工事計画が中止または延期となり、今後の仕事量を確保することが難しくなっている。活発に営業活動が出来ない中、手持ちの工事から利益をあげて人件費を確保しなければならず、資金繰りを圧迫する状況になってきている。（電気工事／全道）
・新型コロナウイルスの長期化により、建設工事現場における作業中断、住宅等の工期遅延、材料仕入れ単価の上昇、建設需要・工事引き合いの低調、従業員の稼働低下などの諸問題が顕在化し、資金繰りや採算悪化が進みつつある。
（左官工事／全道）
・今月前半は昨年同様に公共・民間工事の発注があり、昨年と同程度の事業量を確保できる見通し。（管工事／名寄）
・４月は食品・イベント関係の荷主で売上ゼロになったが、宅配関係は微増したため売上全体としては大きく落ち込んでいない。（一般貨物自動車運送／全道）
・物流は一部を除いて減少傾向にある。（一般貨物自動車運送／小樽）
・新型コロナウイルスの影響で一時的に雑貨・日用品関連は増加したが、現在は下降傾向。建設・機械関連は工期延期により減少している。域内輸送についても同様。例年この時期は閑散期だが、今年は新型コロナウイルスによる消費低迷が予想されるため、厳しい経営環境が見込まれる。（一般貨物自動車運送／石狩）
・売上高は前年同月比54.7％減少。乗務員数は前年同月比5.6％減少。４月分チケット取扱高は前年同月比54.4％減少。（一般乗用旅客／旭川）